

新世紀とやま文化振興計画（H30 改訂版）後期重点施策骨子素案

1 後期重点施策の柱について

＜前期重点施策の柱＞

- （１）文化の次世代の担い手の育成
- （２）世界に向け、新たな文化を創造・発信する文化交流拠点の形成
- （３）越中万葉以来のふるさと文学など「ふるさとの歴史・文化」の魅力の再認識及び、その継承・発展
- （４）アートとデザインをつなぐ取組みによる文化の創造など富山ならではの新たな価値創造



＜本県を取り巻く状況変化等（第1回富山県文化審議会で提示）＞

- ・ ウィズコロナ…ICTの活用等、文化活動の継続、振興
- ・ 北陸新幹線敦賀延伸…県外観光客の増加を踏まえた取組み
- ・ グローバル化…文化芸術を介した国際交流推進（2020五輪、2024万博）
- ・ 国の文化政策の動き…文化芸術推進基本計画（第2期）の策定状況、文化観光推進法の策定など
- ・ 県の動き…富山県成長戦略、文化審議会でのご意見、県民アンケート



＜状況変化を踏まえた後期重点施策の柱（案）＞

- （１）文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実・育成
- （２）文化芸術による地域の活性化の推進
- （３）ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた芸術文化の振興

2 後期重点施策

(1) 文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実・育成

①こども・青少年とともに、子どもに関わる大人も一緒に楽しめる、芸術鑑賞、体験機会の充実

(事業例)

- ・子ども、親、学校等ともに楽しみ親しみやすい美術館等の企画
- ・親子で楽しめる文化イベントの開催、支援

②学校教育との連携（STEAM 教育など）、芸術文化指導者の派遣などを通じた、子どもや若手芸術家の育成

(事業例)

- ・学校等での出前公演などアーティストの活動・発表の場の拡大
- ・次世代を担う子どもはじめ県民ニーズに対応した指導者の派遣
- ・若手工芸作家の育成や作品制作・発表機会の創出

③技術スタッフ、キュレーター等文化芸術を支える人材の育成

(事業例)

- ・県立美術館や公立文化ホールにおける人材育成支援

<国の動き>

- ・「文化芸術の担い手」となる団体・関係者や文化芸術活動への支援強化（諮問）
- ・芸術教育の充実（諮問）
- ・技術スタッフ、キュレーター等文化芸術の振興・付加価値創出に資する幅広い人材の役割に着目することが重要（文化芸術推進基本計画（第2期）に向けて）

<県成長戦略>

- ・特に県外への流出が多い若い女性と、仕事や家庭の負担が大きい子育て世代の女性を注視（戦略1 KPI 関係）
- ・県内経営者や社会人に対する研修者やリカレント教育へ支援するほか、～STEAM 教育～など初等中等教育を含む公教育全般の強化を図る（戦略4）

<委員意見>

- ・文化の担い手を増やすには若い世代が文化に触れる機会を増やすべき
- ・子どもにかかわる大人（親、先生等）への働きかけるべき
- ・子どもがいろいろな指導者と出会う機会を充実すべき
- ・アーティストを支える人材・チームの育成必要

<アンケート結果>

- ・ウェルビーイング創造のために県・市町村が重点を置くべき施策「こどもが文化に親しむ機会の拡充」50.7%（問18）
- ・子どもたちが文化に親しむために力を入れることは、「文化鑑賞の機会等を学校教育の場で充実」55.1%（問16）

(2) 文化芸術による地域の活性化の推進

①本県の豊かな文化資源の活用、魅力の発信、広域連携による周遊観光の促進

(事業例)

- ・本県の個性的な美術館・博物館、世界遺産の五箇山合掌集落、むぎややおわら、国宝瑞龍寺や勝興寺をはじめとした有形無形文化財めぐりなど周遊観光の推進
- ・立山信仰や黒部宇奈月キャニオンルート的一般開放を見据えた立山黒部周辺の文化観光推進
- ・立山・白山・富士山の「日本三霊山」をテーマとした石川・静岡県との連携

②特色のある国際的な芸術文化振興事業の充実と発信

(事業例)

- ・「利賀サマーシーズン」、世界の子供達に参加する「とやま世界子ども舞台芸術祭」、「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」の開催

<国の動き>

- ・文化観光による文化振興・観光振興・地域活性化の好循環の創出を推進（文化芸術推進基本計画（第2期）に向けて）
- ・国と民間が協力してグローバルに展開するための方策（諮問）
- ・文化芸術による地域活性化に向け、地域の文化資源を保護、活用し、文化芸術の担い手育成や振興拠点を強化していくための方策（諮問）

<県成長戦略>

- ・食やクラフト（工芸）、自然の中で行うスポーツなど富山の「風土に根差した事業」、また、これらをベースとした新しい形の観光業などのスモールビジネスの成長を支援（戦略5）
- ・世界的に評価され、国内外から人を引き付ける、ウェルビーイングを体現した象徴的な場（景色、コンテンツ、事業、イベント等）の創出（戦略3 KPI）

<委員意見>

- ・地域の活性化に向けては、富山のよいもの（おわら、水美、利賀など）に加え、日常的なものにも焦点を当てるべき
- ・県内の地域ごと独自に有する伝統文化について情報発信していくべき
- ・文化を観光に生かすには、中身をわかりやすく説明することが必要

<アンケート結果>

- ・国内外に誇れる文化等は「五箇山」62.9%、「おわら・むぎや」54.8%、「立山・黒部」52.4%、「瑞龍寺等」49.0%、「ますずし等食文化」31.0%（県民アンケート問11（1））

(3) ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた芸術文化の振興

①美術館、博物館における最新の情報通信技術を使ったオンラインでの鑑賞機会の充実

(事業例)

- ・富山県美術館等の収蔵作品等のデジタルアーカイブ化の整備
- ・企画展をウェブ上で鑑賞できる3D化の実施

②美術館等におけるリアルでの鑑賞を促す取組みの充実

- ・ICT技術を活用した美術館、博物館等の展示機能強化
- ・SNSやデジタル広告などターゲットを絞ったICT技術を活用した美術館等のPR
- ・学芸員によるギャラリートークの動画配信の充実など企画展等の魅力PR

③文化芸術活動の継続支援

(事業例)

- ・公立文化ホールにおける適切な感染拡大防止対策の実施等による芸術活動継続支援
- ・リモートや多拠点による文化芸術活動推進にむけた公立文化施設の機能充実・強化

<国の動き>

- ・ウィズコロナを見据え、現地への移動を伴わない鑑賞等の環境を醸成するため、文化に関するアーカイブの整備、オンライン配信の充実が求められる。(文化芸術推進基本計画(第2期)に向けて)
- ・団体・関係者や文化芸術活動への支援強化(諮問)

<県成長戦略>

- ・コロナ禍で進んだリモートワークや多拠点居住の流れに沿って、ワーケーションやサテライトオフィスの誘致・拡充を推進(戦略2)

<委員意見>

- ・コロナ下でも一定の舞台活動を継続できた富山の強み、地方の可能性を盛り込むべき
- ・コロナ後を見据えオンライン等で魅力発信を

<アンケート結果>

- ・ウィズコロナ、アフターコロナにおいて芸術文化団体支援、鑑賞機会の確保について、実施すべき施策「実地での鑑賞機会の確保」50.6%(回答者全体)、但し30代においてはオンラインを含む鑑賞機会の確保が75.0%(県民アンケート問19)
- ・新型コロナによる公演や展覧会などの鑑賞頻度の減(やや減少と大幅に減少の合計)との回答した者は56.0%(県民アンケート問2(2))